

教員活動状況報告書

提出日：令和 5年 3月 4日
 所 属： 獣医学部 獣医学科
 氏 名： 河合 一洋 職位： 教授
 役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

私は生産獣医学系の産業動物に係わる教員です。私の本学の大学教育における役割は、より多くの学生に生産動物に興味を持ってもらい、本学からより多くの産業動物獣医師（産業動物臨床獣医師および県職獣医師）を排出することです。そのためにこれまでの臨床経験を活かし、下記の担当科目について学生に臨場感ある教育をすることが重要と考えています。その教育内容は、産業動物獣医師の仕事の概要、家畜の管理衛生、食品としての畜産物、家畜疾病予防など幅広く、講義科目では畜産学から獣医学にわたる基礎知識を、実習科目では畜産環境における検査から実際の症例を診ながらの獣医学における診断、治療、予防技術について教育を行っています。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医学概論	獣医学科	必須	1	148
産業動物臨床基礎実習	獣医学科	選択	1	144
動物人間共生論	動物応用科学科	選択	1	153
牧場実習	獣医学科	必須	2	151
獣医畜産管理学	獣医学科	選択	3	155
畜産物利用学	獣医学科	選択	3	131
家畜衛生学 I	獣医学科	必須	4	136
家畜衛生学実習	獣医学科	必須	4	137
基礎・産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必須	4	137
産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必須	5	146
産業動物臨床実習	獣医学科	必須	5	144
産業動物アドバンス実習(牛)	獣医学科	選択	6	5
獣医学特論 I	獣医学科	必須	5	5
獣医学特論 II	獣医学科	必須	6	5
卒業論文	獣医学科	必須	6	5
家畜人工授精特別実習	動物応用科学科	選択	4	44

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

私のミッションである本学からより多くの産業動物獣医師を排出するという信念は、現在社会が抱えている産業動物獣医師の不足に起因します。現在充足していると思われている NOSAI 北海道や道職員ですら充足できていない状況で、府県においてはその傾向は更に強くまた偏りがあります。日本の畜産を永続させていくために、それをサポートする獣医師は無くてはならない存在であると考えております。したがって、関東圏において長年最も産業動物教育に力を注いできた本学にとっては、今後も更により良い獣医師を排出することで社会に貢献しなければいけないと考えています。具体的には、学内の衛生管理区域内にある家畜飼養施設、実習場をフル活用し、より充実した参加型臨床実習を行うとともに、獣医療技術だけでなく、産業獣医師としての心構えや考え方など実学的な教育を展開することで、バランスの取れた獣医師を育成していきたいと考えています。このことが本学の価値を高め、社会に大きく貢献していく大きな柱となっていくものと考えます。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

これまでの教育についていつも重要視していることは、できるだけわかり易く、実体験に基づいた自分の言葉で話をすることです。多少脱線した話でも自分の経験を話すことで学生に興味を持っていただくことが第一で、その次に科学的な理論に沿った話であると考えています。

アクティブラーニングについての取組

産業動物臨床実習や家畜衛生学実習ではグループワークなどの参加型実習を取り入れながら教育を行っています。

ICTの教育への活用

ICT活用はこれからの課題です。学理以外のツールも研究しながら活用していきたいと思えます。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

- 1) 教育（授業，実習）の創意工夫（B）
- 2) 学生の理解度の把握（B）
- 3) 学生の自学自習を促すための工夫（B）
- 4) 学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A）
- 5) 双方向授業への工夫（B）

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

②上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

産業動物に興味の少ない学生（小動物臨床獣医師志望学生）においては、一部の学生において正直講義実習共に積極的ではない学生がいる雰囲気を感じています。しかしながら、現在馬、山羊、綿羊など、産業動物種でありながらペットとして飼うケースも増えていることから小動物臨床志向の学生にとっても重要であることを理解してもらいながら、自分もできるだけ興味を持ってもらえるように、学生が興味を示す話題を1講義一つ用意して話をしたり現場の話を多く盛り込みながら話をしたりするなど心がけています。今後は更に双方向の学習ができるように授業方法に創意工夫を凝らさなければいけないと強く感じておりますので他の先生の授業を参考にしながら取り組もうと思います。

③国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

国家試験対策は、例えば4年次であっても通常の講義の中で重要な点は強調して伝えるなど工夫をしています。現在国試委員のため6年次の講義は持っていません。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

例えば家畜衛生学Iの講義では、より理解を深めるような講義資料の作り方、説明の仕方を行いました。

② ①の結果はどうでしたか。

授業評価は、概ねよかったと思います。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

更に実学教育を目指して臨場感のある教育を行っていきたいと考えています。

6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

常に国家試験を意識した授業に心がけています。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

学生からの評価は授業評価によって把握します。研究室での卒論研究については、学生のモチベーションを保持するため必ず在学中に一人一回は学会発表を行うこととしており、優秀な発表は学会発表等で賞をいただくなど第三者からの評価も得ています。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)

FD 研修会には都合のつく時はできるだけ参加し参考にするように心がけています。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。

最終的な自分のミッションである本学からより多くの産業動物に係わる獣医師を排出することを達成するために、短期的には添付に示す卒業後の就職状況で産業動物に係わる学生が増えていることを確認しながら、本学を関東圏では最も産業動物獣医師育成に力を入れている大学として認知していただけるよう努力することです。現状では年度で波はありますが、年々増加しつつあります。近年は大動物の開業獣医師のもとに就職する学生もいて、実際はもう少し多いと考えています。

2022 年度は、NOSAI 北海道との包括連携協定を推進し、締結することができました。今後は、さらに内容の濃い実学教育を実現するため、包括連携協定を利用しながら学生の育成に努めていきたいと考えています。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。
資料：麻布大学 HP、全国 NOSAI、NOSAI 北海道 資料

●FD 研修事後課題 (ピアレビューによるブラッシュアップ) の実施

該当を○で囲む

●下線部以外は今回新規追加した事項を示す。

有・無